



# 次代へ残す 久田和紙の技術伝承

## 「心をこめて和紙をすく」

西尾 千鶴子

聞き手・権谷未奈 廣瀬彩 (石川県立能登高等学校2年)

和紙で作った作品

### 自己紹介

昭和15年5月22日生まれ。名前は、西尾千鶴子です。生まれた所は字柳田です。桐畑と言うところです。ここ(紙工房みわ会：小間生公民館)は、能登町字柳田小間生です。



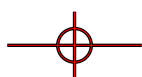
小間生公民館にて

みわ会は皆さんで、先人の人達が受け継いでやってきたことをやろうと、和紙づくりに取り組んでいます。子供が小さい頃教えてくれたこと、牛乳のパックを原料にして紙すきを始めからずっとやっているんです。郷土の自然からつくった心のこもった、生きたコウゾの木、それで和紙をつくって生きがいを感じているんです。自分も小さい頃から和紙と言うのはよう聞いてますから。

### 久田和紙の由来

あのね、昔、江戸時代から久田という地区に和紙の材料を採ってたそうです。それでずっと昔から和紙をつくってたそうです。その原料をつくるのに大変苦労したそうですよ。それで出だしが久田の方だったから和紙にちなんで久田和紙ってずっと昔からゆうとるらしいです。

お嫁に来たとこのおばあちゃんらにも聞いたときにも親戚の中にも和紙の材料をどっか運ん







(左) 小間生小学校跡の公民館 (右) 切り出したコウゾの木

でたとか、そんながに収益得たとかって聞いてとりましたから、なんか興味持ってね、自分もやってみたいな一と思って、きっかけがずんずん出てきたからやることになりました。うん、楽しいですよ。楽しいってゆうよりやりがいがある。やっぱり先人の人たちがこぞって作ってらしたのを受け継いでいっていいじゃない。そういうのをまた次の若い世代にあげればいいなあとと思っているからつなげていければと思っているんですけど…。

和紙づくりが、なくなりそうになった時期（大正初期から昭和の終わり頃）があり、子供たち（昭和63年に地元の小間生小学校の地域学習として復活し、児童が紙すきの体験を続けていた）に習ったんですよ。小間生小学校が閉校（平成13年）になることを聞いたときにみんなでやろうということで、ずっとそのきっかけをつないでこうってそんな気持ちが強いし、それからなんかやりがいのある。本当の純のコウゾなんで、山でずっと自生してるんですよ。

山に生きとる木刈ってきて、そしてするわけでしょ？ それも、そこらへんにたくさんあるんじゃないの。ある地面ってゆうのは決まってるんですよ。どこにでもあってゆうものでもない。ありそうでないの！ この地域にあるわ。

### みわ会とは

なごやかな会話、広がる輪、楽しい和紙づくりのひとつという3つの輪でみわ会！ みんなで楽しく、わいわいがやがや、そうゆうふうにみなさんお母さん方集まって、そいで小さなものから順番にやって、なんとなくね、たのしく…。

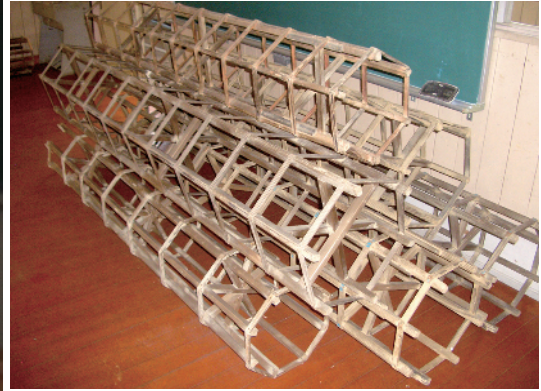
### コウゾの木について

桑の木によく似ているんです。それがこのへんに自生してるんですよ。

それを去年から子供たち（小木中学校・柳田中学校）に植えていただいて、山ばかり行ってられないし、歳もいったからということで、子供たちにもそれを刈り取ってもらって、しようということで植樹したわけ。

### 和紙づくりのきっかけ

小間生小学校に子供を出して、ほいで牛乳パックからやりだして、学校の先生が教材としてコウゾを使われて、そして卒業証書とかそういうのに使われたことあるんですね。保育所でも作ったことともあるし、うん、やっぱり最初は牛乳パックからはじまって、それから興味持ちましたね。よく子供のころ、山にたくさん松茸でもなったじゃない？ その時に山から松茸とってくるでしょ？ それをきれいにしてその昔の和紙か、そうゆうふうなのを濡らして、巻いて、そして炭の下に入れると蒸し焼きみたいになる、そのときの和紙。「古い和紙ってこんなもんか」って小さい時からよう和紙ってゆう言葉は聞いていました。そしてその蒸したその松茸なんか出すでしょ？ 普通の紙はね、焦げて破れますけど、和紙は破れなくてそのまま開くと松茸出きて、頑丈なんですよ。ものを煮るときの蓋にしたり、ひよけにも和紙が使われる。湿気もとるし、いろんな昔の人の知恵も小さいころから聞いたことがありますよ。耳にはしてますけど、現実自分でしたのはこの学校、小間生の小学校。廃校前からちよっ



(左) 田んぼのわくを使った行燈  
(上) 田んぼのわく

と子供の卒業証書をみんなですいてたから、そういうのに興味もって、閉校とともに、みなさんこの辺の人たち「それじゃあ、やろう」ということで、今んとこ会員さん18名でやっていますね。和紙づくりに興味もって、閉校とともにみわ会結成したわけなの。この辺の人たちでね。

### 時間をかけて、心をこめて

和紙をつくる時間はね、長くかかりますよ。10月の終わりにから11月頃、刈りにいくでしょ？ それから今度それを蒸したり、はずしたり、すくったり叩いたりするのにけっこうな時間かかります。何か月もかかりますね。順番にしていこうから。思い出とかも増えますね！

牛乳パックでつくる和紙とコウゾでつくる和紙は、ぜんぜん違います。

できる日にちや過程。牛乳パックって簡単じゃん！ はいでパックを平らにして、水のなかに入れて2・3日。牛乳パックの場合ね。でしょ？ そいでナイロンにギウギウウってひいて、みんな細かくして、そこにノリ入れたでしょ？ そのノリ入れて、そんなに日数かからないじゃん？

コウゾだったら切ってこんにゃならんし、蒸さにゃならんし、山からもってきて、それから一定の大きさに切って、それから窯に入れてってゆうことにはひどい日数かかるのね。自然の和紙づくりにはそのままの原料を使って、そして水にさらしとくと白くなるの。でもやっぱり塵が入ったりすりゃあ困るからそれは取るようにしてますよ。でもね、地道な仕事だから寒い時にする塵とりね、1月とか2月とかの寒

の水冷たいときにする、そういうときは冷たくてなんかね、ひどいんですけど、笑いながらやってます。そうせんとできませんもんね。でも寒いときれいな和紙ができるそうですよ。雪にさらしたりすると、山の方行くと雪と雪の間にはさんでしとったって話聞きますわね。それと一緒に寒いといい和紙ができるそうです。

夏は水がぬるいでしょ？ 暑いでしょ？ 虫もわくでしょ？ あんまよくないですね。しまったきれいな和紙つくるときは寒いほうがいいらしいです。そんな聞いてます、先人から。

### 和紙づくりに使う道具について

これは田んぼに使う枠ですね。それに和紙貼ったんです。作るものによって枠が変わるんです。はがき作るのもあるし。短冊はこうゆう風に1つの枠に。いくつも種類ありますよ。作るものによって使いわけとるんです。

ほんでこれが、攪拌するがに使ってます。先の会長さんや作ってくださって、ミシンのペダルと掃除機の本体をつなげてあるげん。本当は圧縮させるげんけど、私達はすぐ使うものはこうゆうふう機械を使って乾かしてますよ。

### 和紙で作ったもの

合併するときに各小学生にバラのコサージュを作って皆さんにあげてんわ。いろんなもの、たとえば、トロアオイの根っこを使うんです。叩いて出てきた、その液を。それで、



叩いた根っこはカスなの。自分はねえ、これ乾かして和紙に張っ付けて模様とか、そんなのに使ってます。

コウゾの使わんとこは、乾かしてお人形さんの土台にしたり。なんでもできます。でも、今年は気候とかの関係でカビ生えりん…。

18年度に作った七夕のあるんですよ。この竹は、18年度にとった竹なの。そこへ和紙をシュート溶いてその上に色をぬってあるんです。だからこんだけ長いこともってんね。

ミツマタの木、これもコウゾと同じで和紙の原料と同じで紙幣とか証券にも使われとりんわ。

コウゾを乾かしてとつとくげん。卒業証書とかにまた使うがに。とことん叩いて、繊維を細かくせんと、紙がこんなふうになりません。このまな板に原料おいてコウゾの使わんとこ叩き棒にして、とんとことん叩かせてます。卒業証書作るとき子供たちが大変やーて言ってます。

### 洋紙と和紙の違い

さわり心地も違うしご存じのとおり洋紙は白く見えるでしょ？ 和紙はちょっとくすんでますよね。白いがあるけど。雪の中のにさらしたり、水を何回も何回も変えたりすると白くなっていきます。和紙のいいところは、普通の紙だったらほら、水の中に入れてたらべらっと溶けますでしょ？ これもうなかなか溶けないの。墨で書いて文字は流れてもそのまま残ってますよ。なかなか丈夫ねんわ。

東北大震災で水害とかあった時も和紙の破片が少し残っ

とったってことが分かったが、ニュースになんか聞いた覚えあるわ。

ほれから、国宝なんかでも文化財なんかでもみんな洋紙じゃなくて和紙使ってらっしゃるんやわ。まあそんなように多様化しとるねえ。

ほんで昔の人らは防音とかなんとかかてが和紙で境してらして、昔の人の知恵って素晴らしいじゃない。いろんなものにできるさかい。

洋紙で鶴でもなんでもこしらえられるけど和紙はいろんな形でやり方によってはチューリップとか胡蝶蘭なんかでも、それから花瓶もみんなこうして和紙貼って、ほして作ってあるんです。

### 和紙で卒業証書作ろう

前から幼稚園児の卒園の時に先生からやられて、つくっておいでたわ。最初にお話した牛乳パックではがき作ってという試みからコサージュでもなんでも和紙で作って、でも手間がかかるし、和紙ってのは高いでしょ？ それは和紙が好きなのか見て分かる人とか和紙の値てが分かる人でなければやれんわって。思いません？

川北の加藤和紙は、バッグでもなんでも紙で作っておいでたわ。私らも研修に行ってくるんです。ほんで皆さんのいいところを見てくるんです。そしてまた考え直して、すぐに新しいもの生まれたりとかはせんけど、だんだん、少しづつ良くなってきたかなあとと思います。



コウゾの皮をはぎ伸ばす





(左) 和紙で作った作品 (右) みわ会の作業風景

人はみんな自分の技術をそれなりにその地域地域でやっているとでしょ？ そんな人たちに教えてって言うてもなかなか教えてくれんもんね。

中学生たちに和紙作りを体験させてあげようと思ったきっかけは、卒業証書をどうせ購入するんだから、つくったらどうですか？って、前の会長さんがそういうふうにお話したの。それなら、卒業証書くらい手助けできるかねえっていうことでやりだしたのよ。ひとりひとりのものしか作れんからね。

### 和紙で作るもの

和紙で1回型取って花瓶みたいななんも作ったことあるけれど、やっぱり中になんか入れんとダメやしね。その改善をちょこしずつ試みとりんけど。まず自分たちは柿渋塗って長く持つようにしとりんけど、あそこに牛乳パックでこしらえたがあるけどカビ生えてきた。

今、試みとるのは縫えるようにすること。普通の紙でも和紙でも縫ったらプツプツと、切れるでしょ。それをなんとかして縫えるようにしたいなあって思っとるげわ。

あそこに置いてあるフクロウとかお雛様とかもみんな和紙で作ってあります。

ほしてみんな暇あると集まって、しおりの紙を作ったり、押し花押したのを缶の入れ物中に入れてたりしてますよ。

ほんで半端になった小っちゃい和紙とかもみんな人形さんとかに使うがにとっておいてあるげんわ。

### みわ会の活動時間

一応会員の皆さんは午後の1時30分頃から4時ごろまで集まって、3時間ほどやね、ボランティアやから。ボランティ

アやからあんまりきつく言われんやん、自分で求めて、自分から進んでおいでる人ばかりやから。本業はお百姓さんとか、お勤めに行ったりとかしてる人おいでるでしょ、お若い人で。私らはみんな野良仕事してるじゃん。その合い間に来て、そしてやるんですよ。だから午後来て4時ごろ帰るとまたお家で仕事できるでしょ。だから一応ボランティアでやってるから、あんまり無理なことできないの。でもその日によって、朝からきて紙すきをするときもあるけどね。

### 和紙づくりでつらいと感じること

1～2月とかの寒い時期とか、水が冷たいから一番苦難ですわね、手とかすごい冷たいから。手仕事やから素手にせんと駄目やもんね。

和紙作りで苦労したことは、まずどれもこれも苦労やわね。全体に苦労するわね、みなさん。なんせ一番苦労なのは、原料採りに山へ行く、そして運んでこなんらんでしょ？ 伐採せんらんし、切れ目入れたり、いろんなことが重なってくるからねえ。

### 和紙づくりへの思い

一応紙すくでしょ？ 今回はこの紙すいて何かしようかなあって。はやもうひらめいてくる。それが楽しいんですよ。

お互い生き物同士、つくる方もつくられる方もねえ、そう思わん？ ミツマタさんは、ミツマタの原料は証券になったり紙幣になったりしとるじゃん。私らコウゾで自分たちの思いに行燈とか花とか作るの。次どんなが作ろうかなあって考えながら。次こんなやつてみようかとかさうゆう思いにやっているとなんとなくね、次進んでいけそうな気がしま

せん？ なんでもそうでしょ他の仕事も。嫌やと思えばなんでもできんじゃん。楽しいから続けられるんですよ。ボランティアでね。

これまで捨てていた紙すきで出てくる捨てるものにもいいものがあるじゃないって思って、それを使うの。ものが生き返ってくるね。捨てるどころなんにもないですね。ここ（みわ会）は、みなさんでやりかけて何十年しか経ってないでしょ？ 先人の人たちから受け継いだんじゃないかって、子供たちから習ってやってるでしょ？ だから自分たちで考えなきゃできなかったじゃん。そうしたときに、思い付いたことがこういうことなのね。

次何かつくろうかなーと思うときに、「これに何色いれる？ かぼちゃつくってみよう」とか、考えるわけ。発想が出てくる。歳いったときのぼけ防止！ これからも和紙づくりを続けていきたいなーと。あの、うまくできれば健康の間…できなきゃどうしようもないけどね。できるだけしていきたいなーと思います。あと、後継者がたくさんできてくれればいいなーと思いますし。

[取材日時：2013年8月6日・11月5日]

#### PROFILE

**西尾 千鶴子** にしお ちずこ  
昭和15年5月22日生・73歳  
久田和紙づくり、紙工房みわ会会員

能登町久田地区に350年以上伝わる「久田和紙」を守ろうと、みわ会を立ち上げ、伝統継承をすすめている。何度も「久田和紙」の窮地に立った西尾さんたちは、小間生小学校の6年生から紙すきを習い、平成13年9月に会を結成した。



#### ● 取材を終えての感想 ●

今回、聞き書きを行った。物づくりの良さや苦勞、技術を継続させ守っていく重要さがよくわかりました。

私は小学校の頃に1度、和紙づくりを経験していたので、取材前から興味がありました。取材をしていくにつれて、もともとあった興味がさらに深まり、作品にとっても魅力を感じました。こんなに素敵なものを作れる西尾さんやみわ会の会員さんが行っていることを私たちの取材から多くの人に知ってもらいたいと思いました。

取材させていただいたものを書き起こす作業は大変でした。ボイスレコーダーから聞きとったものをパソコンに打つという作業は、案外時間がかかり、期限もあったので必死でした。そんな中、「聞き書き」に参加している他校のみんななどの研修で、意見や感想を聞いたことで、何とかまとめることができました。

「聞き書き」体験に参加したことは、私にとってとても良い経験になりました。仲間との交流、取材、友達と先生と協力したこと、学んだことをこれから生かしていきたいです。

(権谷未奈 写真:右)

私は、この「能登の里山里海人間書き」研修を通して、多くのことを学ぶことができました。

まず、私は人にインタビューをするという経験が全くなかったので、説明を聞いても、何を聞き、どんな順番で質問をするのか、質問を考えていても最初は3・4個しか出てきません。周りの人はもう次の段階に進んでいたの、すごく焦っていました。必死で資料をあさって、何とか質問が出揃いました。でも、いざ取材してみると、質問の順番がバラバラだったり、似たような内容だったりして西尾さんには、大変

申し訳ないと思いました。2回目の取材では、1回目の取材の失敗を活かすことができました。

そして、何より、西尾さんとこのような形で関わることができて良かったです。今度は、実際に和紙づくりに行きたいと思いました。(廣瀬彩 写真:左)